

## 卒業生の活躍

### 卒業生の活躍

#### 「英和の後輩のみなさんへ」

鈴木 菜々子



津田塾大学学芸学部英文学科卒業。在学中はオープンキャンパスのガイドを務め、英和高校の生徒達の大学案内の手伝いもしました。またアルバイトでは、学んだ語学を生かして、ディズニーランドで英語と韓国語圏のお客様対応を担当しました。この4月から学研ホールディングスにて社会人としてのスタートをきります。

#### はじめに

みなさん、こんにちは。私は2007年山梨英和高等学校卒業生の鈴木菜々子です。私はその後津田塾大学学芸学部英文学科に進学し、イギリス文化を専攻していました。今年の3月に大学も卒業し、4月からは学研ホールディングスに就職します。今回は、私の大学生活や就職活動について皆さんにお伝えしたいと思います。拙い経験ではありますが、少しでも皆さんの今後の役に立てればと思います。

#### 私を培った英和

皆さんは「英和に入学してよかったな」と感じることはあるでしょうか？多くの人は「ほかの学校と変わらないのではないか？」と思うでしょう。実際私もそう思っていました。しかし、大学に入学して英和で教育を受けた事がどれ程ありがたく、大切な期間だったのかを知ったのです。

まず、毎日の礼拝。聖書を読み、心の琴線を刺激することは自らの心を成長させる事が出来ます。大学では毎日礼拝などおこないません。今、聖書を通しささまざまな価値観に触れることは非常に大事なことだと私は考えます。実際東京で一人暮らしとしていくなかで、迷った時やさみしい時など、聖書の言葉が頭をよぎり、私の心を照らしてくれたことも多々ありました。またきっとこれからもそうでしょう。

英和で行われる行事も私を成長させてくれました。勉強だけでなく、人とかかわりを大切にする英和だからこそほかの学校にない、花の日やウォーカソンといった行事が行われているのだと思います。行事の中で、相手の気持ちを考えたり、人のために何かすることの意味を覚えてもらったりしました。

この前実家に帰った際、高校の時の卒業文集を読み返しました。その中で私は「英和の何が良かったのか」という問いに対し『「毎日」が良かった』と記していました。きっと高校3年生の時の私は、毎日の礼拝や行事が特別なことだと

は感じていなかったのだと思います。他校では特別なことを、日々の生活の中で経験出来るのは英和の良さです。また、私もこの英和の教育によって心を強く鍛えられた一人です。

#### 就職活動について

今からお話する私の就職活動については、あくまで一例にすぎません。私のやり方が皆さん全員に合致するとは限らないので、参考程度にいただければと思います。

私は高校生の時からマスコミを志望していました。大学に進学してからはマスコミの中でも特に出版業界に興味を持ち、就職活動でも出版社を中心にエントリーシート(以下ES)を出していました。「マスコミ就職は狭き門」と聞いていたので、出版社に絞ってESを出すのは、私にとっていわば「賭け」でした。しかし、志望外の会社に何時間も割いて何通もESを書けば、マスコミ就職の試験勉強がおろそかになってしまいます。マスコミ一本で就活するのか、とりあえず沢山受けてみるのか、どちらにするのか悩んだ結果、私はマスコミで頑張ってみることを選んだのです。

ESは自分のこれまでの経験やその会社でやりたいことなどを書くものです。採用担当の人の心を響かせるESを書くには、大学時代だけでなく中・高生の時からの基礎作りが重要だと思います。幸いな事に、英和では礼拝やさまざまな行事があります。それらはきっと皆さんが大学に行って自分のやりたいことを示してくれる道しるべになるはずです。皆さんはそのような豊かな環境にいるのですから、ぜひそれらを最大限に生かしていただきたいと思います。「生かす」というのは、ただ行事に参加するだけでなく、協力したり、皆で試行錯誤することです。礼拝においては聖書の言葉に耳を傾けることです。難しいことではないはずです。

#### おわりに

私にとって英和で過ごした6年間は、私自身の人生の種を蒔いてくれた期間だったと思います。皆さんもぜひさまざまな経験ができる恵まれた英和の環境を最大限に生かし、いろんな種を自分の人生という畑に蒔いてほしいと思います。楽しみながら頑張ってくださいね。

## 卒業生の活躍

# 「英和での6年間、今、そしてこれから」

飯田 樹



国際基督教大学（ICU）教養学部社会科学部卒業。大学1年生の時から広報センター学生スタッフとして、オープンキャンパスや受験生メールマガジンの発行に携わりました。また、留学生も多く参加している「ICU日本舞踊研究会」にも所属。3年時には部長を務めました。この4月には早稲田大学大学院政治学研究科へ進学し、将来は政治思想史の研究者を目指しています。

### 政治思想史の研究者を目指して

私は2007年に山梨英和高校を卒業した飯田樹と申します。3月に国際基督教大学教養学部社会科学部（今は一学科制となったためアーツ・サイエンス学科のみ）を卒業しました。この4月からは、早稲田大学大学院政治学研究科で修士1年生となります。専攻は政治思想史です。研究者を目指しており、その適性を見極めるべく、修士課程に進学することを決意しました。

これだけ書くと、ものすごく真面目で賢そうですね。残念ながら、そんなことはありません（笑）。確かに、英和を卒業して政治思想史で研究者を目指す、という人はあまりいないかもしれません。少なくとも、数年前までは私も自分が政治思想史の研究者を目指すとは思っていませんでした。

### 英和での学びの姿勢が根幹に

英和での教育が今の私の根幹になっています。その流れを英和での学習、学校生活、そして現在の状況の順で追っていきましょう。

まず、英和での学習は私自身に学ぶ習慣をつけてくださったとともに、新しいことを知ること、学びの面白さを教えてくれました。英和の先生方はとても面倒見がよく、毎日の予習・復習、そして宿題をしっかりと出してくださることと思います。当時はてんでこ舞いだった私ですが、毎日一定量の課題をこなすことは、学習のみならず、タイムマネジメントをする習慣も身につきました。これは、大学に入ってからでも社会人になってからも役立つことと思います。次に、学びの面白さを知ったのも英和の教育でした。学ぶことは新しいものとの出会いだと思えます。確かに中学・高校時代の学習はいわゆる“覚えごと”も多いかと思えます。しかし、その中にも未知の事柄との出会いがあり、好奇心を刺激するものでした。英和で学ぶことの面白さに出会えたことは、「大学でちゃんと勉強しよう！」と私を思わせてくれたきっかけです。

次に、英和での学校生活は自らの生き方を考える基礎をつ

くる経験であったと同時に、かけがえのない友人たちとの出会いでもありました。高校時代、私は放送委員会でアナウンスに熱中するとともに、弁論大会にも参加していました。目立ちたがりですか（笑）？ そうだったかもしれませんね。しかし、これらの経験を通して私は「言葉」に対する関心を強くしました。言葉を扱う経験を通して、社会の中で言葉がどのように扱われているか、言葉には何ができるのかを真剣に考えるようになりました。そのため、多角的な視点から言葉について学ぶことができるという理由で、リベラルアーツのICUを第1志望校に選びました。この間、言葉についての興味を強くしたのは事実ですが、いろいろな大会や受験など多くの壁とも向き合っていたのも事実です。その中で援けになったのは友人たちとの何気ない会話でした。壁にぶつかることは多くとも、友人、先生方、家族に支えられることで1つずつ扉を開いていく人生の基礎となる時間だったと回想します。

### 「平和を実現する人々は幸いである」

ICU入学後の最初の時点では、言葉を扱うことから、言語学や日本語教育などに関心がありました。しかし、いろいろな分野の学問に触れる中で、思想史の面白さに出会い、暴力ではなく、言葉や対話による政治の方法を考えたいと思い、西欧政治思想史・現代政治理論を専攻することを決めました。この選択にも、英和での教育が影響していると思います。「平和を実現する人々は幸いである」という聖書の言葉が心の奥底で数々の知識とともに、私の思想の起源となっています。4月からは大学院での日々が始まります。新たな学びと出会いに期待して、言論による平和な政治の姿の探究に邁進するつもりです。

簡単にですが、英和での学びが今の私にどのように影響しているかについて書かせていただきました。ここまでお読みいただいたことに感謝いたします。読んで下さった英和生の皆さまが、個性的で有意義な学生生活を送れることを心より願います。